様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１２２７６

研究課題名（和文）帝国日本の植民地における衛生規範の確立―公衆浴場の普及に注目して

研究課題名（英文）The Establishment of Hygiene Norm in colonies of Imperial Japan: Focusing on Diffusion of Public Baths

研究代表者
川端　美季（KAWABATA, MIKI）

立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授

研究者番号：００６２４８６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代日本の植民地である東アジア、とくに台湾・韓国・中国（旧満州）において公衆浴場と清潔規範が結びつけられ、制度として強化されていった過程を、当時の公衆衛生政策の展開を通して検討することを目的とするものである。研究課題の基盤となる近代日本国家の清潔観の言説と近代日本植民地における公衆衛生政策に関する資料収集、公衆衛生行政の展開と近代国家の清潔観の関係性の分析を行ってきた。ただし、2020年から2022年にかけては新型コロナウイルス流行にともない、海外調査がほぼ行えない状態であったため、研究期間のほとんどは国内調査にとどまらざるをえなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年、公衆浴場や入浴の歴史は国内外の様々な領域で注目を集めており、日本の植民地統治下の公衆浴場の歴史についても、検討が始められつつある。本研究はそうした一連の学際的な歴史研究のなかに位置づけられるものであり、台湾・韓国・中国（旧満州）それぞれの統治地域ごとの違いや共通項を明らかにしようとした。また同時期の日本国内や内国植民地とも位置づけられる北海道や沖縄との共通点や差異を示唆し、加えて日本国内の差別に潜む清潔観を浮き彫りにした。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to examine the process by which public baths and cleanliness norms were linked and strengthened as institutions in modern Japanese colonial areas in East Asia, particularly in Taiwan, Korea, and China (formerly Manchuria), through the development of public health policy at that time. I have collected data on the discourse of the modern Japanese state's view of cleanliness and public health policy in modern Japanese colonies as the basis for our research project, and analyzed the relationship between the development of public hygiene administration and the modern state's view of cleanliness. However, from 2020 to 2022, due to COVID-19 epidemic, it was almost impossible to conduct overseas surveys, and most research periods had no choice but to limit themselves to domestic surveys.

研究分野：公衆衛生史

キーワード：公衆浴場　清潔規範　衛生　入浴　植民地　公衆衛生　清潔　不潔

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

従来の日本の歴史研究では清潔観念の変容が思想史的に明らかにされてきた。その一方で入浴の場である公衆浴場はほとんど顧みられない存在であった。公衆浴場がどのような検討対象されてきたかというと、文化史や風俗史のなかで論じられることがほとんどであり、とくに江戸期の「湯屋」については研究が蓄積されてきたといえるかもしれない。

とはいえ、従来の研究では日本文化としての入浴習慣という前提が共有され、公衆浴場の近代史は入浴文化史の随伴物として取り上げられるにとどまっている。つまり、江戸期の「湯屋」から近代的「公衆浴場」への移行の過程については衛生史的観点を欠き、検討されてこなかったといってよい。

しかし、欧米では公衆衛生史研究を通じて、「公衆浴場」は単に身体の洗浄の場だけでなく、主に下層民を対象に道徳的に「洗浄」を行う統治装置としての機能を有していたことが露わになりつつある。1980 年前後から、公衆浴場は医学史・文化史・社会史・都市論・民俗学・建築学が交差する先端的な公衆衛生史研究の重要な争点となってきている。そこでは 19 世紀半ばから 20 世紀初頭にかけて欧米を中心に展開された「公衆浴場運動 Public Bath Movement」の意義が欧米の研究者によって問い直され始めている（Glassberg 1979）。

公衆浴場運動とは、19 世紀半ばから欧米で展開された「労働者」/「貧民」の衛生環境と衛生習慣の改善を目的とし、公衆浴場を建設する運動である。公衆浴場を通じて入浴習慣を普及させ、伝染病の脅威と「労働者」/「貧民」の「不潔」という悪習を改善させ、清潔さを啓蒙することを意味していた。ここで焦点化されるのは、身体的規範としての清潔さである。欧米の先行研究は、清潔な身体が市民社会を守る規範を示すことにつながり、清潔さの獲得が市民社会の一員になることにつながっていたことを指摘している（Williams 1991）。

公衆浴場運動は 20 世紀初めに日本でも紹介された。日本では欧米とは異なり、入浴習慣があるため清潔な国民であるという言説が 19 世紀末から衛生家たちの間で現れていたものの、20 世紀初頭には新たな社会問題として、労働者問題や被差別部落の生活環境の問題が注目を集めていた。行政や社会事業の専門家たちは彼らの生活習慣や生活水準の向上を目指し、「公設浴場」を設置するに至った。同時に、北海道のアイヌについても生活の違いや「清潔規範」という観点から、彼らを「不潔」と見なし「清潔さ」を強化させようとする言説が現れつつあった。アイヌなどの「異民族」や植民地の人々を「不潔」な民と「発見」するまなざしは、近代的な「清潔さ」の身体化を強化させ「不潔」とするものの差別意識ともつながっている。

「不潔」という視点は日本がアジア地域を植民地化していく際にも働いた。植民地統治の際に、その土地の人々は「不潔」であると見なされ、公衆浴場は衛生習慣を啓蒙し衛生規範を根付かせるための施設として位置づけられたと考えられる。ただ、それはあくまでも近代的かつ日本的な衛生規範であっただろう。そこで本研究では、日本が植民地化した台湾、朝鮮、中国（旧満州）を対象に、公衆浴場の設立をとおして衛生規範がどのように強化されていったのかという過程を検討することとする。

２．研究の目的

本研究では公衆浴場を通していかにして衛生規範が強化されたかということを学術的問いとして設定し、その過程を日本が植民地化した東アジアを対象に検討する。また、日本国内のみならず、近代日本の植民地の公衆浴場をめぐる制度や言説を中心に検討する。このことによって、これらの地域が制度化され衛生的性質が定義されてきた歴史を、公衆衛生史の観点から明らかにし、海外の衛生観念と衛生施設との関連性をめぐる一連の研究のなかに位置づけるものである。

本研究は日本の国内のみにとどまらず、近代日本の公衆浴場運動が「欧米――日本――日本統治下植民地」という流れで広がっていくダイナミズムを描き出すことにつながると考えられる。

３．研究の方法

研究方法は、国内外での資料収集にもとづき、論文投稿、学会報告を軸に進めるものとした。まず、一般民衆への衛生規範の浸透過程を詳らかにするために、明治後期から戦前における植民地の衛生政策を概観する。そのうえで、公衆浴場に関する政策及び言説の精査、また行政資料、医学雑誌、社会事業雑誌、新聞記事などの言説の収集・分析を行う。

資料調査は日本の国立国会図書館や各自治体の公文書館及び、台湾の国家図書館、中央研究院、韓国のソウル大学、仁川市立広域博物館、また旧植民地地域における大学図書館や地域図書館において行う。

４．研究成果

研究成果は以下の１と２を踏まえ、学会報告、論文などを発表した。
(1)植民地下の公衆衛生政策、および公衆浴場・入浴施設について、国内の大学図書館や国会図書館デジタルコレクション等で、資料の収集を行った。
(2) 日本植民地下の公衆衛生政策について、国内外の図書館、資料館を中心に資料収集を行った。ここでは行政資料からのみでは明らかにならない公衆浴場の位置づけや、どのような認識をもたれていたのかを検討するために、新聞や雑誌などの資料を収集し分析した。
(3) 感染症流行における「感染しない」ことをどう見なしているのかという問題について、日本人の「国民性」と「清潔さ」といった視点を関連させつつ検討した。

2017 年度には、日本生命倫理学会および日本医学哲学倫理学会で学会報告を行った。さらに国際学会である The Asian Society of the History of Medicine と History of Medicine in Southeast Asia 合同大会で報告し、また『医学史研究』に論文「近代日本の母親像と清潔規範――家政書の「入浴」に関する記述を通して」を発表した。

2018 年度には、日本医学哲学・倫理学会や日本生命倫理学会の学会報告をふまえ、日本医学哲学・倫理学会の学会誌「医学哲学医学倫理」に論文「近代日本の「国民性」言説における身体観と道徳観」を発表した。

なお、新型コロナウイルスの流行にともない、海外調査ができず国内調査も限られたため、2020 年度から 2022 年度はほぼ資料調査に専念することとなった。ただし、感染症流行時に感染しないことが「清潔さ」や「不潔さ」を示す習慣や国民性と結びつけられやすくなる現象が生じ、過去の歴史との共通項を検討するかたちで、2020 年度に『現代思想』（青土社）に論考「清潔の指標――習慣と国民性が結びつけられるとき」を発表した。

2023 年度に、植民地文化学会フォーラム「１００年目の関東大震災」で「関東大震災と植民地統治下の公衆浴場」というタイトルで報告した。なお、この報告内容を「植民地文化研究」（植民地文化学会）で発表した。

新型コロナウイルス流行のため、海外調査が一時難しい状況ではあったが、調査再開後の韓国の事例検討などを通じて、韓国での民族性と清潔さが結びつけられつつあったことや、観光や余暇の領域で浴場が設置されていったことについて検討し、今後の研究への新たな方向性を見出すことができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 川端美季	４．巻 22
２．論文標題 関東大震災と植民地統治下の公衆浴場	５．発行年 2024年
３．雑誌名 植民地文化研究	６．最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川端美季	４．巻 第48巻第7号
２．論文標題 清潔の指標――習慣と国民性が結びつけられるとき	５．発行年 2020年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 170-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川端美季	４．巻 4
２．論文標題 書評：若林悠『日本気象行政史の研究――天気予報における官僚制と社会』東京大学出版会、2019年	５．発行年 2020年
３．雑誌名 生存学研究	６．最初と最後の頁 55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川端美季	４．巻 37
２．論文標題 近代日本の「国民性」言説における身体観と道徳観	５．発行年 2019年
３．雑誌名 医学哲学医学倫理	６．最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川端美季	４．巻 100
２．論文標題 近代日本の母親像と清潔規範――家政書の「入浴」に関する記述を通して	５．発行年 2018年
３．雑誌名 医学史研究	６．最初と最後の頁 117-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　4件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 川端美季
２．発表標題 関東大震災と植民地統治下の公衆浴場
３．学会等名 植民地文化学会フォーラム「１００年目の関東大震災」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 川端美季
２．発表標題 日本の銭湯の歴史――大阪を中心に
３．学会等名 おおさか府民ネット公開講座（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 川端美季
２．発表標題 大正時代の崇仁地域の公衆浴場
３．学会等名 崇仁~ひと・まち・れきし~vol.14完成記念講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 川端美季
２．発表標題 「清潔な習慣」と国民性」
３．学会等名 立命館大学生存学研究所オンラインセミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 Miki Kawabata
２．発表標題 Public Baths and the Concept of Cleanliness in Modern Japan
３．学会等名 First meeting of the Asian Society of the History of Medicine, and History of Medicine in Southeast Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 川端美季
２．発表標題 近代日本における清潔規範の形成と展開
３．学会等名 日本教育史研究会サマーセミナー（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 川端美季
２．発表標題 国民道徳における切腹概念の検討――近代日本の死生観をめぐって
３．学会等名 第37回日本医学哲学・倫理学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 川端美季
２．発表標題 近代日本の「国民性」言説における身体観と道徳観
３．学会等名 日本生命倫理学会第30回年次大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関